

論文問題冊子

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、2題で90分です。試験問題1～7のうち、2題を選択してください。
3. 会計学の指導教員を志望する場合は、問題6、7(会計学分野)の中から1題は選択してください。
4. 試験問題についての質問は、受けつけません。
5. 試験開始後ただちに解答用紙の中の受験番号記入欄に受験番号と、問題番号記入欄に問題番号を誤記のないように記入してください（氏名は記入しないでください）。
6. 解答用紙1枚につき、1題解答してください。1枚の解答用紙に複数の問題を解答した場合、無効になります。また、解答用紙には裏面もありますが、1題につき、解答用紙1枚で収めるようにしてください。
7. 解答は、日本語で行ってください。
8. 問題冊子・解答用紙に汚損等がある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

2020年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 1

両利きの組織 (Ambidextrous organization) に関して、どのような特徴を持つ組織を指すのか、具体的な事例を挙げながら説明しなさい。

2020年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 2

最近では、D&I (Diversity and Inclusion)の視点から、企業のディスアビリティ・マネジメント(disability management)が注目されている。ディスアビリティ・マネジメントとは何かを説明したうえで、ディスアビリティ・マネジメントについて、日本企業が直面する課題を論じなさい。

2020年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 3

ロビンソン (R.D. Robinson) は、国際化する企業の組織形態や管理構造を「国内志向 (Domestic) 企業」、「輸出志向 (Foreign Oriented) 企業」、「国際 (International) 企業」、「多国籍 (Multinational) 企業」、「超多国籍 (Transnational) 企業」、「超国家 (Supranational) 企業」に分類した。それぞれの特徴について説明しなさい。

2020年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営システム

問題番号 4

次のような線形計画問題を考える。

$$\begin{array}{ll}\max & x+y \\ \text{s.t.} & 2x+y \leq 30 \quad (\text{B1}) \\ & x+5y \leq 51 \quad (\text{B2}) \\ & -3x+y \leq 0 \quad (\text{B3}) \\ & x \geq 0, y \geq 0\end{array}$$

このとき、次の(1)～(4)を答えなさい。

- (1) 実行可能域を図示せよ。
- (2) 目的関数の最大値と最適解を求めよ。
- (3) 制約条件 (B1)、(B2)、(B3) のそれぞれに対応するシャドープライスを求めよ。
- (4) 制約条件 (B2) について、対応するシャドープライスを維持するように右辺の値をどこまで増加させることができるか。また、同様に右辺の値をどこまで減少させることができるか。それぞれの値を求めよ。

2020年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営システム

問題番号 5

以下の3問すべてについて解答せよ。

1. 以下の用語について説明せよ。

- (1) 単純無作為抽出法
- (2) 多重共線性
- (3) 第2種の誤り
- (4) AIC

2. 確率変数 X が期待値 3、分散 4 の正規分布に従うとする。

- (1) X の確率密度関数を数式で記述せよ。
- (2) $E[3X] + \text{Var}(5X)$ の値を求めよ。導出過程についても記述すること。

3. 標本 $(x_1, y_1), (x_2, y_2), \dots, (x_n, y_n)$ に対して、以下の回帰モデルを考える。

$$y_i = \beta_0 + \beta_1 x_i + u_i, \quad i = 1, 2, \dots, n$$

ただし、 u_i は誤差項とする。また、以下の値が得られたとする。

$$n = 20, \quad \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 = 300, \quad \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) = -450$$

このとき、以下の問いに答えよ。必要があれば以下の数値を用いよ。

自由度 18 の t 分布の上側 5% 点 = 1.734, 自由度 18 の t 分布の上側 2.5% 点 = 2.101

自由度 19 の t 分布の上側 5% 点 = 1.729, 自由度 19 の t 分布の上側 2.5% 点 = 2.093

自由度 20 の t 分布の上側 5% 点 = 1.725, 自由度 20 の t 分布の上側 2.5% 点 = 2.086

- (1) 上記の回帰モデルを OLS 推定し、 β_1 の OLS 推定値 $\hat{\beta}_1$ を求めよ。導出過程についても記述すること。
- (2) 上記の回帰モデルを OLS 推定し、 β_1 の OLS 推定値 $\hat{\beta}_1$ の推定誤差 $\text{SE}(\hat{\beta}_1)$ が 2 であったとする。このとき、有意水準 5% で β_1 の有意性の検定を行え。過程についても記述すること。

2020年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 会計学 問題番号 6

以下の問いに答えなさい。

- (1) 会計における損益計算方法である損益法と財産法について、それぞれの内容を説明しなさい。
- (2) 損益法と財産法の本質的な違いを指摘するとともに、会計においてこれら2つの損益計算方法が必要とされる理由を説明しなさい。

2020年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 会計学 問題番号 7

標準原価計算のプロセスと機能について説明しなさい。